# 「ブーちゃんの青春も夢も途中にて」

1月の最終講義を終えて大学院教授を卒業されたジャーナリスト·筑紫哲也さん。

授業の場面や、NEWS23の映像からはなかなか垣間見ることができない素顔の筑紫さんを丸ごと描写しようと、心の万華鏡をクルクルと回しながらその魅力に迫ってみました。

遊びや幸福感、子どもの頃、早大グリークラブの思い出、結婚のエピソードから映画、文学、グルメ、おしゃれに至るまで、生活感あふれる楽しい話の数々です。

聞き手　羽田智恵子

## 僕らの世代は手を抜けなくて

— 最初に、大学院の教授を経験された率直な感想から。3年の刑期終了でやれやれですか？（笑）

**筑紫：**いや、とてもおもしろかったですよ。予想したより大変だったけどね。それは僕らの世代が手を抜けないことと関係あると思うんだけど。

同じ年の知り合いに小澤征爾さんがいてね、すごく忙しくしていて、ついにこの間倒れちゃった。世界的な名声で僕とはレベルがちがいますが、仲良しなんでね。

前々から小澤家にとっては、父親が働き過ぎることが悩みの種で、我が家にとっても同じ問題があって、最初、僕は小澤家の家族に、「征爾は働き過ぎじゃない？」と言ったら、娘（征良さん）に「筑紫さんに言われることはないんじゃない？」と（笑）。

ところが去年の夏、両方とも齢なのに働き過ぎているから、その僕が「気をつけたほうがいい」と言えば説得力があるということになって、楽屋に行って話したのね。結局、お互いこの世代は手を抜くことが下手だよね。引き受けたことを2，3割でやっておけばいいのに、フルにやろうとする。そのクセがあるんだよねーと同病相憐れむになり、説得役になれなかった。案の定彼は倒れちゃったから、「あっー」と思いましたよ。

大学は教授会や雑用を免除してくれたし、森さんたちがやってくれたんで随分助かった。くたびれはしましたけど、やっぱり面白かったですねー。

— こんな筈じゃなかったということもおありでしょう？

**筑紫：**週一回だけ全力投球すればいいと思っていたのだけど、まあ一番いい例が、レポートや作文ですよ。加藤先生とも話合ったんだけど、誤字脱字が多くて、読みにくいもんね（笑）。その時は勢いでやるんだけど、後でそれを見なくちゃいけない。それがこっちに返ってくるわけ（笑）。自分が招いたことなんだよ、しまったなぁと思うんだけど。学生には迷惑で「またやられる」と思っていたみたいだけど、わかってほしいのはやった当人も債務を背負うわけよね。

## オフとオンが行ったり来たり

— 一瞬ラクそうですけどねー（笑）。これから少し余裕をもてるといいですね。
「旅の途中」を読むと、焼き物やお酒、マージャン、音楽など、いろんな遊びのチャンスやノウハウや友達をお持ちなんですが、オフタイムはどのように？

**筑紫：**僕の職業というのはオフとオンの境目がほとんどないんですね。だから、仕事をやっている時も、これはしょうがない、自分が労働して対価で賃金をもらうために働いているという感覚は割合ないんですよ。その一方で、遊びの多い人間だとずっと言われ続けてきて、遊んでいるんですが、例えば映画を見てたり、芝居を見てたりしても、本来楽しみに行っている、オフのつもりで行っているんです。

ところが、仕事のほうの神経がカチカチと作動しましてね、あっ、これは1本原稿に書けるとか、このテーマは面白いからイベントが作れるとか、番組になるとか、オフとオンが行ったり来たりする。義務感でやることが非常に少ないですね。だからこんなに忙しくても、もっているんだと思いますよ。

つまり、オフとオンというのは何を物差しにしているかというと、普通は働いていることと遊んでいることですよね。いつも言っていることだけど、物差しをどういうふうに持つか、あらゆることについて大事であって、もう一つの物差しは、楽しいか、嫌か、ということなんですよ。

義務感が強くなった時、僕は大抵やめようと考えます。個人的に問題なのは、この番組（N EWS23）にやや義務感が強くなってやばいかなと思っているんです。一つのことをこんなに長いことやったことはないからね。義務感には世の中に対するものを含めていろいろありますが。

## 幸せは断片で、後でわかるもの

**— オフもオンも境目がなく24時間、365日流れている日常で、この瞬間幸せだなぁと思うのはどういう時でしょう？**

**筑紫：**幸せって後でわかるもので、やっている瞬間はわからないものですよ。週末は殆ど東京にいないのだけど、田舎のほうに出かけていくと、思わず、「あーっ、空気が旨い！」って感じることがあります。廻りはそこの空気をずっと吸っているわけだから、こいつバカなことを言っているなあと怪訝な顔をされるけどね。

先々週かな、会津若松に行ってきたんです、夜になって皆で酒を飲んでいたんだけど、ふーと外に出て空気吸っていたら、僕が急に出たもんだから、何人かが出てきて「何をしているんですか」って。「いやー、空気が美味しいから吸っているのよ」と。これはおかしいよね、酸欠の金魚が浮かび上がってきたみたいで（笑）。

宮崎県の「綾の森」を歩いていた時も、ものすごいハードスケジュールですよ、もう嫌になるくらいいろんなことをやってね、次から次へとちょっと寄ってくれだとか、会いたいだとか・・・。でもあの森の中は気持ちいい。照葉樹林という今ではなくなったものが塊であることの快感はありますよ。あれで放っておいてくれればもっと嬉しいけど、自然と関わっているとやっぱり幸せだなと思いますよ。

幸せというのは後でわかるのと、意外と断片だということですよね。ほんとにある瞬間の切れ端みたいなもの。今朝、「道草」というテーマの作文を読んでいてね、中学の3年間、新聞配達をしていて、朝の早いお豆腐屋さんとの会話とか、新聞を待っているおばあちゃんがいる光景とか、本当に小さい断片での生活のディテールを書いているものがあった。でもその切れッ端がドンドン無くなっているのが現代の社会なんですよ。

大学院でもずいぶん課外授業というのをやったけどね。で、神楽坂へ行った時に、尾

崎紅葉、流石にあなたは知っているよね？

— はい、知っています。「もみじ」とは読みませんので（笑）。

**筑紫：**もうみんな「もみじ」だと思っているんだよね（笑）。で、そこが尾崎紅葉の家だと言ってもみんなポカンとしている。貫一・お宮の連想は全然働かない（笑）。

— 熱海に連れて行かないといけませんね（笑）。

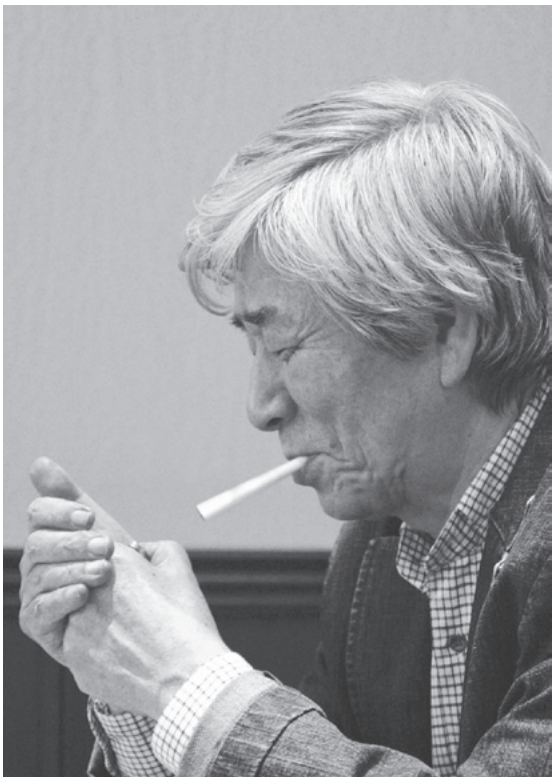
**筑紫：**だからね、その瞬間がおもしろいわけ。

## みんな「健康病」じゃない？

— 私もご一緒にささやかな幸せを感じます（笑）。
ちょっと話は逸れますが、お若い頃からずっとスタイルや容姿をとてもスリムに保っていらっしゃる。本でもテレビでもご自分がスポーツをやる話は聞きませんが、ジムに行くとか、たまにはゴルフをなさるんですか？

**筑紫：**その質問、ついこの間もされたばっかし。ズバリ同じこと言われたよ。全く何もしてない。自分のことだけ言っていればいいのに、余計な口をきくのがこの職業病なんですけど（笑）。

— その余計なことをお願いします（笑）。



**筑紫：**僕はね、みんな病気じゃないかと思うのよね。どういう病気かというと「健康病」。健康であるために何をしなければいけないとか、これがいけないとか、そんな話ばかりしているでしょ。僕はゴルフやりません。ゴルフ嫌いなんです。ゴルフが嫌いという理由がだんだんわかってきたんだけど、ゴルフウェアーが嫌いだということです。普段、抑制に満ちたドブネズミルックの人が急に自由になって、チンドン屋みたいになる。チグハグ。それがゴルフウェアだと思わない？（笑）

— 似合わない人も確かに多い！（笑）

**筑紫：**ね。あの仲間に入るのが嫌なんですよ。ゴルフそのものが嫌いか

はわからない、やっていないから。で、僕は健康法と呼ばれるものや体のシェイプアップは一度もしたことないです。

**— 中年太りになったこともない！？**

**筑紫：**多少はありました。番組始めた頃に。夜の番組でしょ。弁当ばかり食っていなきゃいけない。これが嫌で、いや初めは弁当を食っていたんですよ。そして終わってからみんなでビールを飲む。これだとてきめんに体重が増えてくるわけ。これはいかんと思って、弁当はやめました。健康を考えてやっていたわけではなくて、弁当というものに飽きたのね。異常な食い物ですからね。ノーマルじゃない。添加物も入るし、油っ気は多いし、のどが詰まるし。だから、弁当よりは立ち食いそばのほうがいいという心境になるんですよ。毎日毎日食べていると。

健康法というのは持っていないんですが、歩くことが好きでよく歩いています。

**— サスガに都内では歩けませんよね？**

**筑紫：**都内でも歩きますよ。都内はむしろいいんだよ。都会の人はこっちに気が付いていても知らんふりをしてくれる。地方に行くと、特に関西地方に行くとおばさんたちが厄介（笑）。（スタッフ席から「ちょっと奥さん、ほら筑紫哲也よ！」）（笑）

僕は歩き方がデートに向いていなくて、早足で歩いてしまう。アメリカ暮らしのせいもあって、ニューヨーク流かな、強歩。早く歩くのが健康にいいと思って歩くわけではないから、やはり何もやってませんね。

## 肥満児で、あだ名は「ブーちゃん」

**— 小学生とか中学生の頃ってどんな子供で、ニックネームなどありました？**

**筑紫：**戦争中で食うや食わずの時代に、大変けしからんことに肥満児だったんですよ。デブでね（笑）、中学の２年生までずっと肥満児でした。僕は徹底した転校生でね、小、中、高、と入った学校と出たところが違う。大学だけ同じだから同窓会が７つもあるんですよ（笑）。それで、中学前半のあだ名は「ブーちゃん」！（爆笑）

**— 素晴らしい、最高！！**

**筑紫：**だから運動神経は鈍いんですよ。しかも頭でっかちで、子供の頃から子供の帽子が入らなかった。上下のバランスがすごく悪くて（笑）。

**— あの時代にしたら身長が高いですよね。かなり大きな子どもでした？**

**筑紫：**ヨコだったものがタテにキューッと伸びたのは中学３年から高校１年にかけて。

きっかけは転校した先、静岡県の沼津で、学校が遠かったので自転車で通おうと、学校の校庭で自転車の練習をしてね。ある時フッと乗れるようになって、これが信じられなかった。小学４年で泳げるようになった時も驚いたし、鉄棒は苦痛で逆上がりは最後までできなかった。それくらい不器用だった。

沼津にいた頃から急速に身長が伸びて、体は細くなって、早稲田大学を卒業した時、尺貫法でいう 16 貫でね、確か 60 キロ。ガリガリに痩せていて、その頃は食い物も悪かったし・・・(笑)。

**— ブーちゃんは運動が苦手でも早稲田の体育は全優だった！？**

**筑紫：**体育は登録するでしょ。僕は、朝起きるのが苦手だったから、体育の登録に出かけていったら、その当時、ワンダーフォーゲル部が人気でね、いっぱいなんですよ。で、人気がなくて学生何人か引き受けて、学生一人頭、いくらって大学からの補助金を待望している部があるわけね。例えばボクシング部とか馬術部。だいたい設備が悪くて、そういう受け入れ側からすると学生は大事なお客さんなわけ。だから優くれる、上達していなくても。ボクシングは、サンドバッグを叩いただけで優をもらえたのね。こうして体育は全部優。

運動神経は無関係。

## 僕はいつも遅いんですよ

— **若い頃、2，30 代で何か失敗したことは？**

**筑紫：**大学では体育が全優でも、他は優が 16 しかなかったのが最大の失敗談。これ以上目算が狂った話はないよ。

— **もしも優が 25 以上とれて、推薦状がもらえたらどうなっていました？**

**筑紫：**なんとかして上司の目を逃れてやる仕事は何かっていうのが、一番の自分の物差し。だから、新聞社は優が 25 以上あっても、受けたと思います。でも、商社も受けていますね。それは、海外に行けるから。あの当時はね、この狭い日本から何とかして外に出たいと、少なくとも血の気のある若者は考えていた時代です。

戦争が終った頃の日本は、世界でも最貧国。何にもなかった。だから、学生時代に貨物船に乗って香港に行くってのは、空前の快挙だった。途中で沖縄には密入国したけど。で、香港に行って驚いたのは、あれだけいろんな飲料水が、コカコーラだけでなく世の中にはあるんだとびっくりした。そういう時代でしたね。

— **新聞記者になってから大失敗や、思わぬ大成功はありました？**

**筑紫：**どっかの本で書いたかな。僕はいつも遅いんですよ。遅いということは成功もない代わりに失敗もない。警察の事件とか、事件記者としては抜かれてばかりで、特ダネをとったことがない（笑）。

## DNA は瀧廉太郎， そして早稲グリでは・・・

— **あの瀧廉太郎が大伯父さま！　早稲グリ（早稲田大学グリークラブ）に入ったことは大伯父様の血が騒いだのかしら？**

**筑紫：**イヤー、早稲グリでも劣等生でね。当時、体育会系に近いくらい訓練が厳しかった。大学の合唱コンクールがあったんだけど、いつも関西学院と早稲田大学とが競り合って

いて、いわゆる名門ってのは練習がハードなんですよ。で、歌っていて明らかに素質がないことが分かるわけね。

— **熱心に練習したのは何年の頃ですか？**

**筑紫：**２年生ね。今のボニ - ジャックスのメンバーが皆、パートリーダーでね。一番低い音がベースで、僕はベース。玉田さんが音叉で音をとりながら順番に稽古をつけるのだけど、僕になると又コイツダって嫌な顔されて（笑）。ほんとに僕は劣等生でね。それでも時々定期演奏会があって、ベースは殆ど同じような音を出しているんだから本当はそんなに狂うわけはない。でもやっぱり音程が狂う（笑）。

普通、テナーはいかに高い音を出すか、ハイＣが出せるかどうか練習するわけですよ。ベースはいかに低い音を出すのかなんですね。だから音を下げる練習ばかりしているわけです。最初に入団テストを受ける時に一番やり手がいない。

しかもテナーは派手で、綺麗にメロディを歌うのだけど、入団テストのときに一番下手そうな奴にどん尻のセカンドベースをやらせるわけですよ。だからたいていは嫌になってぼろぼろ辞めちゃうんですね。本当に縁の下の力持ちで、辞める人が多いから、どんどんベースに投げ込まれる繰り返し。

男声コーラスは厳しい世界だけどベースはそんなに難しくないのに、それでも音がずれるわけ（笑）。コンサートの時も先輩から「おい、音が外れてるぞ！」って（笑）。終始、劣等生で、後半は練習がサボり気味になってね。あと、楽しみの一つに演奏旅行があるのですが、これはお金がかかるからセレクトメンバーなんですね。全員連れて行くわけにはいかない。僕は一回も行ったことがない（笑）。

— **それでも音楽に造詣が深いのは瀧廉太郎の DNA がおありでしょうね？**

**筑紫：**才能はないけれど、瀧廉太郎の血は「音楽が好き」ということだけですね。

あらゆる音楽が好きですね。ただ唯一苦手は演歌。「旅の途中」にも書いたかな、美空ひばりさんが新しい家に立派な録音ルームを作って、そこで夜な夜な焼酎を飲んで、ひばりさんからカラオケを誘われたんですが、断わって、後で惜しい思いをした。

— **カラオケでは滅多に歌わない？**

**筑紫：**僕はカラオケ大嫌い。カラオケで下手な歌を聴くくらいなら、コンサートのほうがいい、良い音楽が好きなんだから。ましてや歌わない人にまでやたら強要するじゃないですか、あれがまた嫌でね。

## 家内の戦略勝ち！

— **今度は奥様との出会いについて詳しいお話を（笑）。これほど国際的に活躍する夫をもつ妻は、器を相当大きくしないとやっていけないかなと。**

**筑紫：**出会いはたいしたことないです。朝日新聞に入り、最初は宇都宮に配属になりました。宇都宮は北関東の都会だから他人のことに関心がないんだけど、次に岩手県の盛岡支局

に行ったら、人口はそれほど変わらないのに、とにかく昔の町でね。知り合いとかいろいろと人目があってねー。何が言いたいかというと、いろんな女性と付き合っても宇都宮では何でもなかったのに、盛岡でたまたまうちの家内と付き合い始めたら、他の女性と付き合う余地がないんですね、人目が多くて。次々というわけにはいかなくなったの、とたんに（笑）。

— それは奥様の戦略だったのではないですか？（笑）

**筑紫：**いやいや、そういう街なんだよ。うちの家内はね、床屋の娘なの。

— その床屋さんは行き付けでした？

**筑紫：**そんなに行き付けでもなかったんだけどたまたま知り合ってね。しばらくしてなんとなく同棲を始めて。

— おいくつの時から？

**筑紫：**新聞社に入って2，3年目だから、25，6かな。

— 25，6？　結構早いですねー！（笑）

**筑紫：**そのまま東京本社に戻ったんだけど。本社の政治部というのは本当忙しいんです。それでしばらくしたら彼女が上京してきてまた同棲を始めたんですよ。

— 逃げたつもりが捕まった！（笑）　そうはいかんぜよと。戦略勝ちですねー。

**筑紫：**戦略勝ち！（笑）

そのころ彼女は活動的な人で、僕も泳ぐことが好きでね。で、ある夏発見したわけですよ。会社に結婚届を正式に出すと、就業規則で扶養手当がつくし、休みももらえる！（笑）。結婚シーズンではないのに、今なら泳ぐのに丁度良いと僕らは7月の暑い盛りに結婚届を出して、新婚旅行先が宮崎と鹿児島です。

それまでサラリーマンの行くところは熱海で、少し張り込んだ人が飛行機に乗って宮崎に行くんですよ。羽田さんとは年齢が幾つくらい違うのかな？

— エッ、まあ、そこそこ違いますねー（笑）。

## 宮崎への旅は地図の空白を埋めるため？

**筑紫：**宮崎はまだハネムーンのメッカになってるか、なりかけている頃でした。大学に来ないで何をやってたかというと放浪していたわけね。それで日本地図を広げて、自分が行ったことのあるところを塗っていったら残っていたところが2県だけあったんですね。それが宮崎と鹿児島だったんです。これは丁度いい、ここに行けば全国制覇できて地図を埋められる！（笑）その時には、おくびにも出さないで。

**— とてもそんなこと言えませんねー。**

**筑紫：**彼女は盛岡だし、当時日本人はあまり遠くに行かなかったからね、東京から向こうに行ったことがなかったんですね。それが日本の一番端まで行くわけだから彼女はとても喜んでいたんだけど。

**— やっぱ、私の選んだ人は違う！**

**筑紫：**ところが、地図の空白を埋めるために行ったという話を後年エッセーで書いちゃった。殆ど僕の本を読まない彼女がそれを読んでね。どうしてそれを読んだのか・・・(苦笑)。

彼女が言うには、新婚旅行は熱海の時代に宮崎まで連れて行ってくれたと永年感謝していたというんだよ。なのに何のことはない、日本地図の空白を埋めるために、あそこを選んだってことが分かったと。女性ってのは、一般論で悪いけれども、そもそも一般論になる癖があるじゃない。「だいたい、あなたはそういう人だった！」ってね（笑）。

**— あ〜、とんだ災難でしたね。**

**筑紫：**とんだ災難だ。もうね（笑）。

**— 身から出た錆びみたいなところがありますけど（笑）。**

**筑紫：**どうしてそんなこと書いたのかな。頼まれた原稿のネタに困ってたんだろうな（笑）。

**— 結婚はお幾つの時に？**

筑紫：結婚したのは、31 かな。

**— まあ、長い春ですね。**

**筑紫：**長い、長い、長い。そのままほっておけばいいと思って、ずっと正式に結婚していなかった。

**— 妻が非常に器が大きいなあと思う瞬間はありますか？　相当懐が深い奥様じゃないかなあと・・・。**

**筑紫：**たしかにね。でも時々限界がくるみたいよ（笑）。

**— その限界って？（笑）**

**筑紫：**いろいろとね。う〜ん、まあ、そうだと思うよ。本人がよく言っていますよ。私だから我慢できているって（笑）。

**— 学校の記念誌ですので、この続きはオフレコで打上げのお酒を飲みながら伺いましょう（笑）。ちょっと話を変えて、もう一度生まれ変わったら、やっぱり今の職業に就きますか？**

## 遊びたいプランはいくらでも

**筑紫：**いやー、これも雑誌の取材で似たような質問を受けてね。小さい頃何になりたかったか。その時に答えたのは、映画監督。そしたら、雑誌が面白がってね、グラビアで映画監督らしい恰好をさせてもらって、革のジャンパーを着て、それでディレクター・チェアーってあるじゃない監督の。布ばりの椅子を用意してグラビアの撮影をしてね、なんと手にメガフォンを持って。そしたら本職の映画監督に笑われました。今頃ね、メガフォンで叫んでる監督はいないって言われた（笑）。

まあ、ステレオタイプの映画監督観はあったと思いますけれどね。やっぱり生まれ変わったら、この仕事じゃない、もっと他に面白い仕事があるにちがいない。同じことをやる必要はないじゃない、違うことをやりたい。

**— そりゃそうですね。ところで大学教授は70歳で定年ですが、キャスターは何歳まで続けられそうですか？**

**筑紫：**これは難しい質問です。僕らはよく同じ世代の中で、高度経済成長時代の「歩兵」と言っているんですが、“foot soldier” つまりリーダーではない。日本をこんなに豊かにする兵隊として働いた世代だから、遊びが非常に下手なんですよ。で、僕がこれだけは自信があるのは、遊びたいプランがいくらでもあるんですよ。キャスターやっていて、こんなに長くなると思わなかったんで、いつもその後のプランみたいなものが、夢に近いけれどあります。

例えば、ある時期私どもの番組がね、海辺の山小屋のセットを作ったことがあるんですよ。僕は具体的に大分県の国東半島のみかん畑を切り拓いて、小屋を建てて海を見晴らすという設定までして、そういうことをやろうと思った時代もあるし。それから、2年間は転々と外国で下宿生活して暮らすというのもいいねーと。ウィーンの下宿屋を調べてもらったりね。いつ辞めてもよかったのにこんなに長くやるって思っていなかった。辞めたかったですね。にも関わらずこんなに続いたのね。

逆にね、腹立つのは70歳定年。早稲田の卒業はもっけの幸いだと思って喜んでいるんですが。ただ、一般論として言えばご存知かと思いますが、アメリカの最高裁で判決が出ていて、要するに年齢差別だという。だから、人間がもう年だから引っ込めというのは、女性差別に置き換えてみればすぐ分かるでしょう。女性だからって言われたら怒るじゃないですか。それと同じことなんですよ。だから、年数で切るという考え方に、賛成ではないです。だけど、じゃあ自分自身はと考えれば、本当言えばもうとっくに辞めていたかったです。もっと好きなことをやりたいし、遊びたかったし。

**— ここまできたら、お元気な限り続けてほしいですね。**

**筑紫：**だから抜けられなくなっちゃったところもあってね。う〜ん、これが悩ましいところで、たった今だってそれを悩んでいる。なんとかならないかなあと。

## 十四代、京都、そして詩が面白い

— 激務ですよね・・・・。これから先はシンプルにお答え下さればいいのですが。好きな食べ物は何ですか？

**筑紫：**和食に今すごく傾斜しているけど、もともとは割合油っこい方が好きだったです。だから、一頃はキャビアにものすごく夢中になって、そのあとフォアグラに夢中になって(笑)、それでトリフがあって、トリフが好きになって・・・。

— うぁー、お贅沢ですねー！

**筑紫：**そうね、一番おいしいと思うのは、志摩観光ホテルのアワビのステーキ。

— あ〜、グルメには有名ですね。私も堪能しました。

**筑紫：**もう一つはね、スペインの鰻の稚魚でアングィラスって言うんですけれど、酒のつまみ、これは旨いものの２番目。

— それを煮るとか、焼くとか、炒めるとか・・・。

**筑紫：**オリーブ油で、ガーリックと唐辛子で、グラグラ煮立っている、こんな小さなのが･･･。

— これもおいしそう。

**筑紫：**これは旨いと思いますね。

— しっかり書いておきますね。若者よ、アングィラスをめざして頑張ろうね！（笑）好きなお酒は？

**筑紫：**日本酒とワインですね、今はもっぱら。

— これぞという日本酒の銘柄をぜひ！

**筑紫：**「十四代」っていう山形の日本酒は最高だと思います。これは東の横綱で、西の横綱は「東一(あずまいち)」っていうのがあります。佐賀県のお酒ですが、

まあ、十四代がぶっちぎりに旨い日本酒でしょうね。でも、日本酒は小さい所からいいものが随分出たよね。

— 将来住んでみたいなあと思う街は？海外でも日本でも。

**筑紫：**何分の一かは実現しつつありますが、住むところは京都ね。ニューヨークに最近までアパートを持ってい

たんですが、固定資産税があまりにも高いんで、売り払いました。ニューヨークにかってのような魅力はなくなったね。住んでみたいと思ったから、住んだんですけれどね。

— 京都の良さというのは？

**筑紫：**京都は奥が深いです、何よりも。さっきの和食一つとっても。和食だけでなくても食い物旨いしね、歴史も深いしね。加藤周一さんという人がね、日本て何なのか、それは二つ、日本語と京都だと言ったことがあるんです。そう思いますね。

— 好きな作家はたくさんおいででしょうね？

**筑紫：**はい。長い間ずっと好きだったのはね、内田百閒という人がいます。いわゆる、小説とは違うものを書いた人ですが。作家の中に入れてもいいと思うんだけれども、詩人で、山之口貘という詩人がいます。

「旅の途中」の最初のところで出てくる、沖縄出身の詩人です。昨日、僕は茨木のり子さんのことを多事争論で紹介しましたが、よく考えてみると、茨木さんと山之口貘は、非常に共通するところがありますね。日本語のある種の自由さっていうか、しかも分かりやすいけど深い。

改めて、昨日、茨木さんの詩集を読み直してみて、だんだん最近齢をとってきたせいかもしれないけど、すごい組み立ての小説より、詩が面白いと思うようになって。詩って、落ち着いて読まないと、気ぜわしい時はまどろっこしいじゃないですか。というか、頭に入らないまま読んでいるじゃないですか。最近、小説より、詩が面白いと思うようになったんですね。

— 最近読んだ本で感動したものは？

**筑紫：**一番直近は、昨日改めて読んだ茨木のり子さんの「倚りかからず」っていう詩集。これは何度読み直してみても、ぞくっときますね。同じく詩人だけど、辻井喬さんの「終わりからの旅」という小説もおもしろかった。

## イングリッド・バーグマンと綾瀬はるか

— 好きな女優さんはいますか？

**筑紫：**女優さんはね、絶えず変わってるんです。例えばね、大昔の子供の頃や若者の頃、憧れの女優さんはイングリット・バーグマンっていう人がいて。中学生の時に、彼女のつまらない映画をですね、朝10時の1回目から映画館に入って篭りきりで、最終回まで観ていたことがあるんです。ただもう顔だけ眺めて、ぽおっーとしていた。

今はもうね、どんどん浮気しているんです。一番直近でいうと、カティア・ナイトリー。"Pride & Prejudice"、「プライドと偏見」の主役。それまで、つまらないお姫様役だったのにね。それと、夕べVTRで観て、思ったよりその映画はつまらなかったけれど、シャーリーズ・セロン。今映画館でやっている「スタンドアップ」。すごい人だよね、あの人も。

— 日本の女優さんでごひいきは？

**筑紫：**綾瀬はるかさんです（笑）。もう、ほんとに可愛い。僕は、割合スペシャル番組で、いろんな人とご一緒してて、それぞれ素敵な人でしたけれど、でも綾瀬はるかちゃん、あんな美少女、つまり実物の方が画面より綺麗な人には久しぶりに会いましたね。だから今、僕の局の仕事部屋には、はるかちゃんのカレンダーか何枚も貼ってある。（笑）

— おおーっ！（笑）

**筑紫：**二十歳だよ。かわいいよ。

— はあー、大変な美少女でしょうね（笑）。好きな歌い手さんは？

**筑紫：**まあ、長年付き合っているのは井上陽水でしょうね。陽水、忌野清志郎、中島みゆきさんかなあ。ずっと聞き続けているのは、群を抜いて陽水ですね。

— 他愛のない質問ですが、血液型は何型ですか？

**筑紫：**A です。

ただし、血液型で人間のことを言っているのは、世界中で日本人だけ。

— 世界中で日本人だけだと・・・。はい、そう言われると思いました。

**筑紫：**よく言っているのは、人類が、人間が、4 種類しかいないなんてことは、こんな悲しい、バカな前提はないでしょ。

— これは省略しましょう（笑）。

**筑紫：**と言いながら、A と答えたと書いとけばいいでしょう（笑）。

— 歴史上の人物で感銘を受ける人は？

**筑紫：**興味深くて、分からないのは空海ですね。日本の歴史上、大きな人物について、いろんな人がいろんなことを言いますが、3 人を挙げる人が多いですね。聖徳太子と空海と織田信長。中でもやっぱり空海は、興味深いですね。分からないことが、多すぎて。

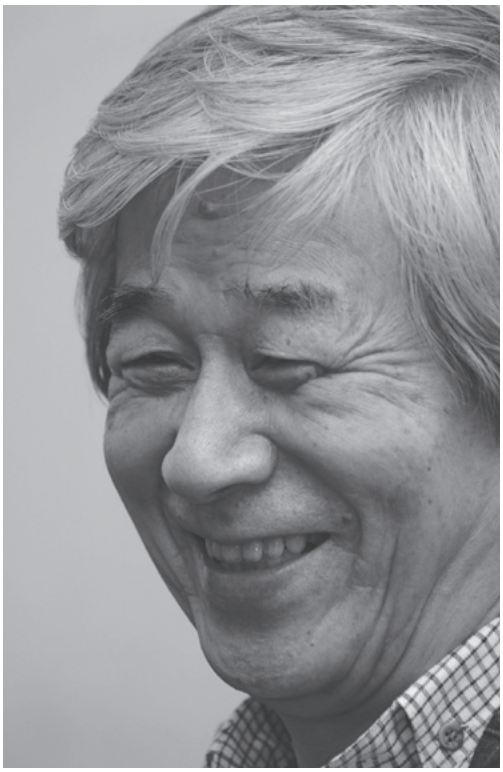
## バーゲンが楽しいんだよね

— いつもおしゃれですが、洋服はご自分で？

**筑紫：**大学に来ている時のチョイスは、ほとんど自分だと思う。つまりカジュアルな時。自分の好みは一応知っているじゃないですか。スタイリストの会社の人やうちの人が買出しに行った時、これは気に

入ると思うよって買ってくれるのは気に入っているという顔をしなければいけない、気に入る場合もけっこうあるんだけれど、そうじゃない場合もありますから。ただ残念ながら、昔みたいに時間がなくて。

昔からLL Beanが大好きで、京都の北大路にLL Beanの店があるんですよ、あとは大阪の梅田に1軒。それで東京には吉祥寺にあるらしいけど、僕、行ったことがない。で、娘夫婦も好きで、吉祥寺が近いからパパ用にって買ってくれたりするけど。京都に行くと、ぶわっと買っちゃう。



**— 意外ですが買い物がお好き！？**

**筑紫：**そりゃそうですよね、誰だって自分で選ぶの、楽しいじゃないですか、その方が。僕、最近初体験なんだけれどね、100円ショップというのも楽しい。

**— 100円ショップ！　どんなものを探すんですか？**

**筑紫：**主に、文房具ばっかりだけれどね。面白いよね。100円だから、いくら変なものを買ったってどってことないと思うから、バババって買うんでね。外国に行くと、すさまじくショッピングしたりしちゃう。ユニクロへも行きたくて行きたくて。だけどちょっと恥ずかしいじゃない、人に見られたりするの。それで、生まれて初めてロンドンのユニクロで、思いっきり楽しんで、あー、これがユニクロだ！って。無印はそんなに恥ずかしくない。不思議なものだよね、バーゲンってものが楽しいんだよね。

**— そうなんですか？　驚くなー、三越のバーゲン会場に現れたら・・・。**

**筑紫：**だから行きにくいじゃない。今日は（大学で荷物の整理があり）労働着なんだけど、もう一枚ジーンズのラフなのがあって迷ったのね。それはね、ドナキャラン。ニューヨークの高級デパートで、そのころは無名に近く、出たばかりなのに高かった。ジャケットがバーゲンで100ドルだったかな。わぁー、100ドルで買えるっていうんで、それでぱっと買ったのね。でもドナキャランが登場した当座、昭和の頃だから、随分大昔です。本来は300ドルくらいしたのが、バーゲンで100ドル。

**— 当時としたら相当お高いですねー。**

**筑紫：**当時は高かったと思いますよ。だから、本来はいくらだったのが、いくらで買えたっ

てのが、快感じゃない。

— 得したナって感じで、元が高級品ですものね。
話題が華やいだところで、楽しいお話をありがとうございました。

interviewer　羽田智恵子
松本生まれ。東京都庁で人事と医療政策。旅の出版社に転じて編集長。
海外タウン情報サービスを起業。「海外安全ネットワーク」事務局長など。
信州大学・早稲田大学卒。06 年 3 月当研究科修了。

記録：伊藤貴子　小暮大祐　長川　愛
撮影：村上敬太
2 月 23 日　大隈会館・楠亭にて